

令和五年度

滝川第二中学校 入学考査 問題

A2日程

国語

(四十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから13ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内わくないに記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督かんとくの先生の指示に従いなさい。

受験番号				氏名	
		—			

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指示された字数には、句読点その他の符号ふごうもそれぞれ一字としてふくみます。)

「ピンピンコロリ」にあこがれる人は多いと思います。好きなことをやりながら元気に生きて、死ぬときは潔いさぎよく逝ゆく。理想の生き方であり、死に方でもあるでしょう。

では、どうすればそれを実現できるでしょうか。

もっとも大切なのは、「健康」と多くの人は答えます。

それでは、私たちの考える「健康」とは何でしょうか。

健康を願うことは、もちろん悪いことではありません。しかし最近では、それが常軌じょうきを逸いつてきていると思います。

① 常軌を逸したものはやがて倒錯とうさくします。「健康のためなら死んでもいい」というような、おかしいことにもなつてきます。呼吸から大気汚染物質おせんぶつを吸い込み、食べ物からは農薬や薬剤やくざい、食品添加物かぶつなどの化学物質をとり込んでしまう現代、生きていることが体にいちばん悪いことになってくるからです。

「健康とは共同性きょうせいがつくった幻想げんぞう」に過ぎない、と私は考えます。健康を規定する健康観は絶対的なものではなく、共同して生きている人々の民族性や宗教などによって、ある程度の方角性

が定められているように思えるからです。

そんなことを問い直して見て、改めて「健康とは何か」と考え
てみてください。

② はたして現代の日本人が追求している「健康」とは、本当の意味での「健康」でしょうか。ひよっとすると、日本という特殊な近代国家に住む私たちの共同性が生み出した、一つの幻想ではないでしょうか。

たとえば、健康診断しんだんについて問います。

「健康のために、毎年決まった時期に健康診断を受け、病気の早期発見に努めています」という人も多いと思います。国も健康長寿ちやうじゆを実現する方策として、病気の早期発見や早期治療ちりようを重視し、健康診断の受診を奨励しょうれいしてきました。

ところが米国総合内科学会は、血液検査や尿検査によう、心電図などは健康な人に毎年受診させる必要はないと発表しています。

これらの検査を減らしても、人の健康や安全えいきやうに影響あを与えないという米国病院医療学会の報告があるからです。米国では、医療費の3分の1が無駄な検査や治療に使われているともいわれています。

③ 日本でも1965年以降、30年間の各都道府県の平均寿命じゆみやうの

延びを調べてみると、医療機関が多い都市部よりも、医師や施設が不足しているはずの地方のほうが寿命は延びています。

介護についても同様です。④一般に、財政が乏しく、人口当たりの病院や特別養護老人ホームの病床数が少ない自治体ほど、要介護の割合が低く、結果的に健康寿命が長くなるという報告もあります。

(A)、日本が世界有数の長寿国に駆け上った理由の一つに、医療体制の充実化があることは間違いないでしょう。日本をはじめとする先進国の医療の進歩はめざましく、日々新しい技術が開発されています。

また、日本の大都市に限っていえば、先端医療を受けられる大病院が林立し、たくさんの人々に多種多様な治療や投薬、そして検査がなされています。健康に少しでも不安を感じたら、誰もがすぐにでも病院に駆け込むことができるのです。

(B)、毎年健康診断を受けられ、十分な治療も受けられるという恵まれた医療環境に置かれている私たちが、病気の不安を持つことなく、健康的な毎日を送れているのか、といったら、そうとはいえないでしょう。

(C)、医療が身近に感じられる分だけ、病気を意識せざ

るを得ない環境に私たちは置かれています。

現に、健康診断を受ければ、「高血圧」「検査値異常」「要経過観察」「要再検査」などといわれ、「健康」と思っていた自分が、一転して病人扱いされることにもなってきました。

一方で、発展した医療も、感染症という極めて原始的な病気に対しては、弱くもろいということがコロナ禍に明らかになりました。しかも、地球温暖化、自然破壊、交通機関の発達などによって、新型コロナウイルスだけでなく、新興・再興の病原体が世界にいつきに広がりやすい環境が整っていることも、私たちは体感しました。日本では今、「ウィズコロナ」とか「コロナ後の社会」などの標語が目立ちますが、いつ再び未知なるウイルスが入り込んでくるかはわからない状況にあるのが現実です。

(D)、健康とは、誰かに守ってもらえるものでも、治してもらえないものでもない、ということですが。安易に医療や薬に頼っているのは、「健康」は不安を生む原因となり続けるだけです。医療まかせにしたりせず、「自分の健康は自分でつくる」と自立した考えを持つことが、結局は、自分の健康を守り、健康寿命を延ばすことになるのです。

なお、私たち人間の体は、自然の産物であると理解すること

も、健康増進には欠かせない、と私は信じています。人と自然は一体です。自然からかけ離れたことをすればするほど、私たちの心身には病気が起こりやすくなることを忘れてはならないのです。

では、私が考える健康とは、何でしょうか。一言でいうならば、「免疫力」です。

免疫力を高めることが、健康を増進することになります。

免疫とは、外敵から体を守り、病気になるのを防いだり、かかった病気を治そうとしたりする、私たちの体に備わった働きのこと。その働きには、まず「感染防御」があり、「健康の維持」や「老化・病気の予防」があります。「がん」にならないようにしたり、「うつ」など「心の病気」を防いだりするのも、免疫の働きです。つまり、免疫とは生きる力そのものなのです。

この免疫の働きは、人類の進化とともに発達してきました。

人類がアフリカで誕生したのは約700万年前、いくつもの種が誕生と絶滅をくり返しながら進化し、私たちホモ・サピエンスだけが地球上で唯一の人類として生き残りました。地球という自然環境には、たくさんのおそろしい病原体が存在しています。その自然の一部として暮らしながら、人は外敵からの攻撃をくり返し

受け、それを上手に逃れながら今日まで命をつないできました。ホモ・サピエンスが生き残り、数を増やしてこられたのは、強固な免疫力が非常にうまく働いていたためです。

事実、私たちの体を構成している遺伝子は、1万年前からまったく変化していません。免疫細胞もその働きも、1万年前のまま、私たちの体内に息づいています。

1万年前、人類はジャングルの中で生活し、草原を走りまわっていました。私たちの祖先はたえず寄生虫や細菌などの微生物とつきあっていたのです。

免疫の働きは、いくつもの免疫を担当する細胞によって築かれています。その免疫細胞には、^⑤寄生虫がやってきたら「こんに

ちは」とあいさつをする細胞があり、ウイルスが来たらお茶を出す細胞があり、細菌が来たらそれに応対する細胞がいます。1万年前と同じように、私たちの体の中では、今もそれらの免疫細胞が存在し、働いてくれているのです。

ところが、現代を生きる人々は、^⑥この大切な事実を忘れてしまっています。「健康は、まわりの微生物を排除することで守られる」と考えている人たちがほとんどです。そうして、偏った「超清潔志向」に踊らされています。それを証拠に、殺菌、抗

菌グッズを生活環境にあふれさせ、どんなバイキンも寄せつけまいとする（⑦）な暮らしを営んでしまっただけではないでしょうか。

こうなったとき、免疫の働きにどのようなことが起こるか、考えたことがありますか。

私たちが薬剤を使って身の回りの微生物を排除し、体内に入つて来ないようにがんばってしまうと、免疫細胞は対応する相手を失い、「無職」になってしまいます。

職を失った免疫細胞ほどやっかいなものはありません。ヒマになった細胞は、今度はいさつをしなくてもよい花粉やダニの死骸、ハウスダストなどにも対応するようになります。そうして起こってくるのが、^⑧アレルギー性疾患^{しつかん}なのです。

（藤田紘一郎『人の研究を笑うな』より）

問一 —— 線部①「常軌を逸したものはやがて倒錯します」とは

どういうことかを説明した次の文の空欄ア～エにあてはまることばを、本文中からアは六字、イは二字、ウは二字で書きぬきなさい（二箇所あるウには同じことばが入ります）。またエは文章の内容にふさわしい、—— 線部①の「倒」という漢字を含む四字熟語を答えなさい。

アをイ するためには ウが大切であると考える

あまり、「ウ」のためなら死んでもいい」と エな行き過ぎた考え方になってしまったこと。

問二 —— 線部②「現代の日本人が追求している『健康』とあ

りますが、現代の日本人が追求している「健康」はどのようなものだと、筆者は考えていますか。本文中のことばを使って十五字以内で具体的に答えなさい。

問三 ――線部③「日本でも……延びています」についてクラス

の三人で次のように話し合いました。

春日 筆者は何のために各都道府県の平均寿命の延びを調べたのかなあ？

滝川 それは僕たち日本人の追求している「健康」が「A」ということの例を挙げるためだよ。

春日 それはどういうことなの？

滝川 つまり医療が充実していないほうが平均寿命がBことを示そうとしているんじゃないかな。

宝田 じゃあ筆者の主張が正しいかどうか僕たちも調べてみよう。どんな資料を探したらいいかな。

滝川 Cなどの資料があれば、確かめられるんじゃないかな。

春日 確かにそうだね。

(1) 滝川さんの発言にある空欄Aにあてはまることばを、本文中から三十五字以内で書きぬきなさい。

(2) 滝川さんの発言にある空欄Bにあてはまる形容詞を答えなさい。

(3) 空欄Cには筆者の主張の正しさを確認するために必要な資料があてはまります。空欄Cにあてはまらないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

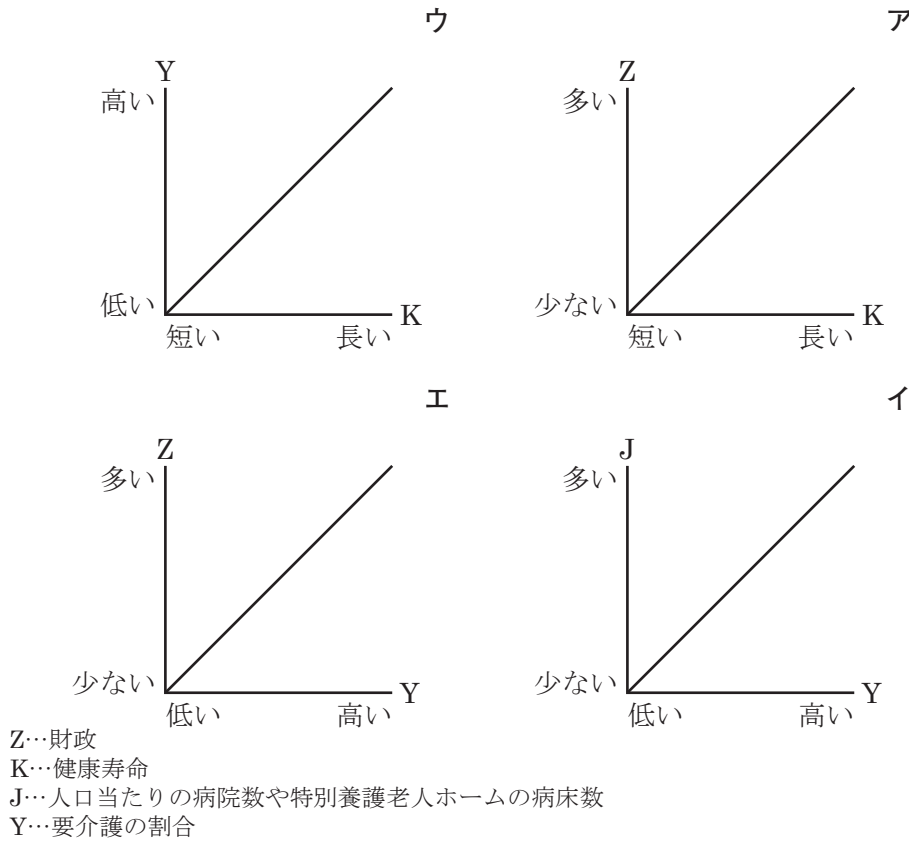
ア 各都道府県の1965年と1995年の1万人当たりの年代別での死亡者数。

イ 各都道府県の1965年と1995年の平均寿命。

ウ 各都道府県の1965年と1995年の人口と1万人当たりの医療機関に通った人の数。

エ 各都道府県の1965年と1995年の1万人当たりの医療機関と医師の数。

問四 ——— 線部④ 「一般に、財政が……長くなる」の筆者の主張に合致するグラフとして適切なものを、次のア～エから全て選び、記号で答えなさい。



問五 空欄 A～D にあてはまる接続語として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ むしろ ウ たしかに エ つまり

問六 ——— 線部⑤ 「寄生虫が……細胞がいます」の行動を四字で表現した部分を、本文中から書きぬきなさい。

問七 ——— 線部⑥ 「この大切な事実」の事実とは何ですか。本文中のことはを使って三十五字以内で答えなさい。

問八 空欄⑦には「完全」から始まる四字熟語があてはまります。それを答えなさい。

問九 ——— 線部⑧ 「アレルギー性疾患」の起こる原因を筆者は何だと考えていますか。本文中から五字で書きぬきなさい。

問十 次のア～カについて、筆者の考えや主張と合致するものは○、合致しないものには×をつけなさい。

ア 健康に少しでも不安を感じたら、すぐにでも病院に駆け込むべきである。

イ 病気の早期発見のために、定期的に健康診断を受けるべきである。

ウ 「自分の健康は自分でつくる」という自立した考えを持つべきである。

エ 私たちの体は、自然の産物であると理解すべきである。

オ 免疫力を高めることが、健康を増進することである。

カ 我々ホモ・サピエンスは免疫の働きを絶えず進化させてきた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指示された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

樋野崎第二小学校では、給食は班ごとに島を作って食べる決まりとなっている。四人でひと班。机を向かい合わせにくっつけて食べるのだが、宙の向かいがマリィだから、彼女が食事をするのを真正面から見ることになる。マリィはどんなメニューであっても、まるで義務であるかのように(①)的に口に運んでいた。

一時間目から運動会の練習があり、疲れ切ったこの日の献立は、月に一度の「いろんな土地の料理デー」で、沖縄料理だった。ラフテーに、ゴーヤとツナのサラダ、そうめんチャンプルーとサーターアンダギー。

「今日の献立、最悪。オレさあ、特にこのゴーヤってやつ大嫌いなんだ。ひとの食いもんじゃねえよ。オレまじで無理」

宙の隣の②元町勇気が、箸でサラダを掻きまわしながら大きな声で言う。勇気は最近になって自分のことを「オレ」と言うようになったが、アクセントがどうもおかしい。バナナ・オレのオレと同じなのだ。この一人称を聞いたときに、③宙は座りの悪さのようなものを感じてそわそわしてしまう。

「川瀬、ゴーヤ好き？ 食ってくんねえ？ あと、こっちのチャップルー？ ってやつに入ってるにんじんも」
「ええ、やだよ。昨日だってアスパラ食べてあげたばかりじゃない」

勇氣は好き嫌いが激しくて、いつも献立に文句をつけている。学校の方針で『アレルギーなどの事情がなければ、残すのは禁止』となっているのだが、勇氣は嫌いなものをいつも誰かの皿に放りこむ。最近では（A）、隣の席の宙が被害をこうむっていた。
「じゃあ、哲郎。ゴーヤだけでもお願い、まじで。サーターアンダギー一個分けてやつから」

勇氣の向かいに座る葛西哲郎は、^④ 寡黙な男子だ。哲郎は首を横に振り、「ぼくもそんなに得意じゃない」と言葉少なに言う。

「えー、なんだよ。お前ら、やさしくないなあ。ゴーヤなんて食ったらオレ吐いちゃうんだよ。家ではこんなもん出たことねえし、ていうか家なら残してもいいんだよな」

甘やかされてるよなあ、と宙は内心呆れる。小学校六年生にもなって、野菜くらいで毎度大騒ぎすることを恥ずかしいと思わないのだろうか。

「あ、じゃあ大崎。オレのゴーヤ食って」

お願い、と勇氣が手を合わせると、黙って食事を始めていたマリーは「嫌。ていうか毎回毎回、バカじゃないの」と吐き捨てるように言った。勇氣が「何だよ、その言い方」と頬を膨らませる。

「嫌なら嫌だけでいいじゃん。バカとか言う必要なくね？」
「だってバカじゃない。食べられないものばかりの自分がみつともないって分かってないどころか、偉そうにふれ回ってるんだもの」

箸でゴーヤを摘み上げたマリーは、鮮やかな緑のそれを、きれいに並んだ歯でがぶりと噛んだ。

「大人になっても、好き嫌いだらけのバカ舌を自慢するつもり？ 気持ち悪っ」

わざとだろう、大きく^⑥ 咀嚼してみせながら言うマリーに、勇氣が「何だよ、お前」と叫んで立ち上がる。椅子が派手に倒れ、楽しそうに食事をしていたクラスメイトたちが視線を向ける。

「嫌いなものは無理に食べなくていいってママは言うぞ。パパだって、いまの日本は栄養豊富な食べ物がたくさんあるから、わざわざ嫌いなものから栄養をとる必要はないって！ 何でも食べなくちゃいけないっていう考えの方が、バカなんだからな！」

顔を真っ赤にして、(⑦) を踏んで言う勇氣を見上げながら、
⑧ 宙は砂糖の加減を間違えたココアを飲んだときのような
喉元の気持ち悪さを感じた。

学校給食に栄養素を求めている時代もあったけれど、それはもはや過去の話。いまの目的は、たくさんの食材や料理に慣れることや、さまざまな土地の食文化を知ること。そして、集団の中の食事のマナーを身に付けること。給食にはそういうさまざまな意図が含まれているのだと、先日校長先生が長々と説明したばかりではないか。ママに食べなくていいと言われたことなど、ここではどうでもいい話だ。

ゴーヤをきちんと嘔下したマリーが「ほんと、バカ」とため息を吐く。

「よくここで『ママ』とか『パパ』をだせるよね。みつともな
いったらないよ。先生、あたし元町くんと一緒に給食を食べるのが苦痛なので、席を離します」

教卓で食事をしてきた担任の北川が狼狽えて「あらま、あらま」と立ち上がる。今年三十になる北川は (⑨) 女性で、子どもたちからは『依子ちゃん』と呼ばれている。

「どうしたの、大崎さん。ケンカしたの？」

「ケンカなんて無駄なことしません。ただ、苦痛なんです」

言うなり、マリーは机を抱えて移動する。勇氣が「オレだつて、オレだつて嫌だし！」と叫んだ。

「依子ちゃん、こいつムカつく！ いきなり、オレのことバカつて言ってきてっ」

「あらま、あらま。あの、大崎さん、食事は楽しくしましょ、ね？」

「元町くんと一緒だと、食事がこれっぽっちも楽しくありません」

きっぱりと言い、マリーは島から離れたところでひとり食事を再開した。黙々と野菜やラフテーを口に運ぶ姿はこれ以上の干渉を拒否して、元々の下がり眉をもっと下げた北川は

「ええと、仕方ないわね。今日のところは、そのまま三人で食べなさい。ね？」と怒りで顔を真っ赤にしている勇氣の機嫌を取るようにやさしく言った。

「なんでここで、そんな対応になるかなあ」

誰かの小さなささやきが聞こえ、宙はそれに応えるように微かに頷いた。

給食時の勇氣の不平不満は、クラスの大半が苦く眺めている。五年生まではその時々々の担任が厳しくしていたので幾分まだだったのに、いまではやりたい放題。それもこれも、北川が『叱らな

い教育』をモットーとしており、それを実践しているからだ。だから勇気が嫌いな食材を誰かの皿に放りこんでも、声高に不満を叫んでも、「頑張りましょうね。でも無理なら仕方ないわね」と繰り返すし、(B)「協力する」というのも、大事よ。みんな、たまには食べてあげたらどうかしら？」と勇気の行動を肯定するするときもある。

叱らないのと、我儘を許すのは違う。そんなこと小学生だって分かるのに、北川は自分が間違っているとは露ほども思っていない。教師として舐められているから『先生』と呼ばれないのに、『ちゃん付け』は親しみの表れだと信じている。勇気ほどではないが我儘を通そうとする者は他にもいて、中には授業を妨害するほどの問題児もいる。しかし北川は彼らも当然叱らない。だから、この六年三組は纏まりのない雑然としたクラスになっていた。

「川瀬、ゴーヤ」

不機嫌なまま椅子に座った勇気が命令口調で言い、顎で食器を指す。宙は「嫌」とだけ返した。哲郎も、先んじて首を横に振る。舌打ちをした勇気は、ゴーヤとにんじんを探っては、皿の外にゴミのように放りだした。そしてトレイの端にすべて出し終えたあと、(C) 食べ始めた。それを横目で見ていた宙は早く

席替えが行われればいいのにと願うばかりだった。いつまでこんな子どもと一緒に食事をしなくちゃいけないのだ。

こりや、マリーちゃんがキレルのも分かるよ……。

勇気の品のない行動のせいで(D) 食欲が失せた宙は、離れていったマリーを見た。マリーはすでに皿を空にしており、牛乳を飲んでいるところだった。ストローで吸いながら紙パックを折りたたんでいるところを見ると、もう飲み終えるのだろう。その顔は、さっきのことに腹を立てているままなのか、険しかった。

(町田そのこ『宙ごはん』より)

問一 空欄①にあてはまることばとして最も適切なものを、次の

ア イから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 積極 イ 自動 ウ 機械 エ 楽観

問二 ——線部②「元町勇気」の座席を基準として、解答用紙の

この給食班の座席表のそれぞれの番号にあてはまる登場人物の名前をフルネームで答えなさい。

問三 ——線部③「宙は座りの悪さのようなものを感じてそわそわしてしまふ」とありますが、このときの「宙」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思春期特有の背のびをしようとする元町勇気を冷静に観察し、さげすむ気持ち。

イ 元町勇気の「オレ」を聞いて、この場から逃げ出したいくなるほど嫌な気持ち。

ウ 調子に乗っている元町勇気が、腹立たしく、すぐにでもつかみかかりたい気持ち。

エ 元町勇気の「オレ」のアクセントに違和感を覚え、居心地が悪く落ち着かない気持ち。

問四 空欄A～Dにあてはまることばとして最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア なんなら イ すっかり

ウ もっぱら エ ようやく

問五 ——線部④「寡黙」は「かもく」と読みます。この言葉が表す葛西哲郎の性格として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言いたいことをはっきり言う性格。

イ 物静かで、おとなしい性格。

ウ いつもおどおどして周りに気をつかう性格。

エ 頭の回転の速い利発な性格。

問六 ——線部⑤「食べられない……ふれ回ってる」のような様子を表した慣用句を、空欄に四字以内であてはめて完成させなさい。

「が厚い」

問七 ——線部⑥「咀嚼」は「そしゃく」と読みます。本文中で使われている「咀嚼」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア うなづく イ ふるえる

ウ かみくだく エ 手を広げる

問八 空欄⑦にあてはまることばを三字で答えなさい。

問九 ——線部⑧「宙は砂糖の加減を……気持ち悪さを感じた」とありますが、このときの「宙」の心情を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 元町勇気の主張に一定の理解は示しつつも、学校の給食にはふさわしくない発言だと感じている。

イ 元町勇気の我儘で幼い考え方があまりにもばかばかしく腹立たしさを感じている。

ウ 自分がいつも楽しみにしている給食に元町勇気の母と父が不信感を持っていることに不安を感じている。

エ 校長先生と父と母の考え方が違うため、元町勇気が混乱していることをかわいそうだと感じている。

問十 空欄⑨にあてはまることばとして最も適切なものを、次の

ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ねっとりした イ さっぱりした

ウ しっかりした エ おっとりした

三 次の(1)～(3)の空欄にあてはまる体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

(1) 怒り心□に発する

(2) 生き馬の□を抜く

(3) □火を切る

四 次の(1)～(3)は空欄と上下左右の漢字を合わせて矢印の順番で読むと二字の熟語になります。それぞれあてはまる漢字を答えなさい。

(1) 意 → □ → 理

(2)

告 → □ → 格
分 ↓
↓
件

(3)

寄 → □ → 化
推 ↓
↓
退

五 次の(1)～(3)のア・イのうち正しいのはどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

- (1) ア 防災計画のためのシミュレーション。
イ 防災計画のためのシュミレーション。
- (2) ア 心ばかりの品をいただき、ありがとうございます。
イ 心ばかりの品をお送りいたします。
- (3) ア 事件が明るみになる。
イ 事件が明るみになる。

六 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- (1) 枚拳にいとまがない。
- (2) アパートを賃借する。
- (3) 百年の知己。
- (4) ヨキン通帳をしまう。
- (5) シヨウウガイ事件が起きる。
- (6) ユウタイケンを配る。